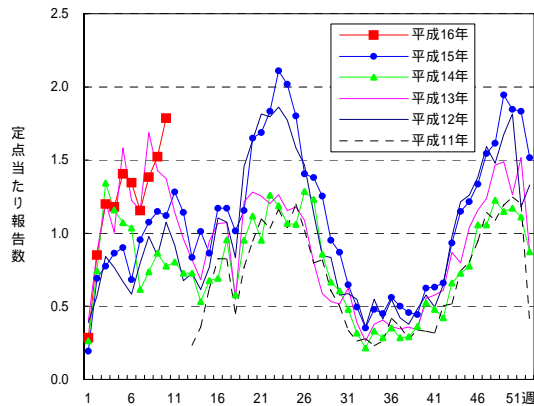
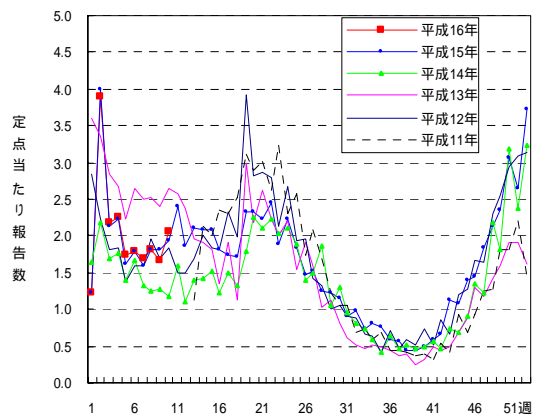


### 流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



疾患名	前週	今週	備考
<u>インフルエンザ</u>	6.5 ↓	4.4 ↓	インフルエンザウイルスによる急性感染症で高熱、四肢疼痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振を主症状とする
<u>感染性胃腸炎</u>	8.4 →	8.3 →	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	1.5 →	1.8 ↑	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症
<u>水痘</u>	1.7 →	2.1 ↑	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症
<u>咽頭結膜熱</u>	0.29 →	0.23 ↓	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

定点当たり報告数

↓ 減少    
 → 横ばい    
 ↑ 増加

(関連リンク)

愛知県衛生研究所における平成 15 年～16 年シーズンのインフルエンザの流行予測

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)

集団かぜの発生: 愛知県のホームページ記者発表資料 (<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>)

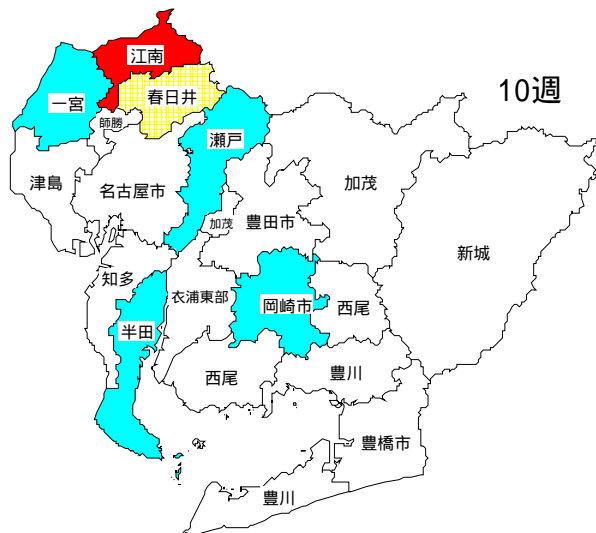
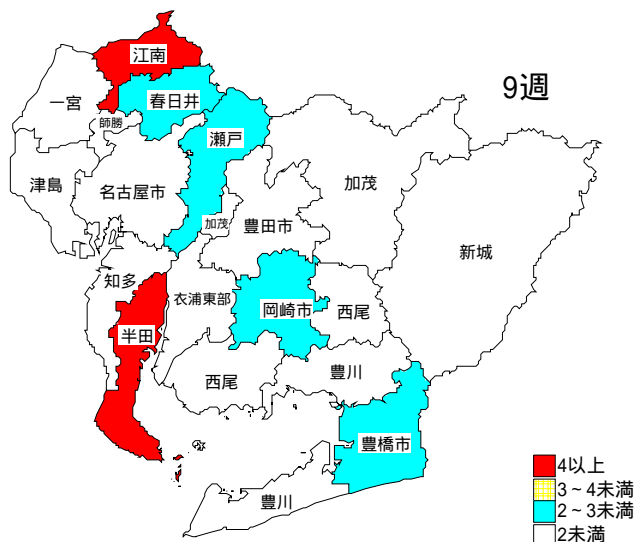
愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

全国状況(感染症発生動向調査週報): 厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - ホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) をご覧下さい。

(作成)

愛知県感染症情報センター 連絡先: 052-910-5619

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	10週	定点 当たり	9週	定点 当たり		10週	定点 当たり	9週	定点 当たり	
名古屋市	98	1.40	71	1.01	岡崎市	19	2.71	18	2.57	
瀬戸	24	2.67	18	2.00	衣浦東部	16	1.45	17	1.55	
津島	7	1.00	4	0.57	西尾	7	1.40	5	1.00	
師勝	4	1.00	7	1.75	豊田市	13	1.63	10	1.25	
一宮	26	2.17	18	1.50	加茂	3	1.00	1	0.33	
春日井	28	3.11	20	2.22	豊橋市	6	0.75	16	2.00	
江南	○	45	7.50	32	5.33	豊川	4	0.50	6	0.75
半田	○	15	2.50	25	4.17	新城	0	0.00	0	0.00
知多		10	1.43	9	1.29					

○ は今週警報が出ている保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行発生警報は保健所(市)定点当たり4.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

平成 16 年 3 月報

2 月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況

		平成 16 年 2 月			平成 15 年度 累 計 (愛知県)	備考(2月)
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県		
一類 感染症						発生報告無し
二類 感染症	コ レ ラ				2 [ 1 ]	
	細 菌 性 赤 痢				23 ( 3 ) [ 2 ]	
	腸 チ フ ス				1 [ 1 ]	
	パ ラ チ フ ス		1	1	3	
三類 感染症	腸管出血性大腸菌 感 染 症	1		1	79 ( 20 )	O26 1 件
四類 感染症	E 型 肝 炎				1	
	A 型 肝 炎				3	
	オ ウ ム 病				4	
	つ つ が 虫 病				3	
	デ ン グ 熱	1		1	2	
	マ ラ リ ア				1	
	ラ イ ム 病				1	
	レ ジ オ ネ ラ 症				3	
五類 感染症	ア メ ー バ 赤 痢	3	1	4	28	
	ウイルス性肝炎 ( E 型肝炎及び A 型 肝炎を除く。 )	1		1	12	B 型 1 件
	クロイツフェルト ヤ コ ブ 病				3	
	劇 症 型 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症		1	1	3	
	後天性免疫不全症候群		6	6	49	エイズ 2 件 無症候性 4 件
	ジ アル ジ ア 症	1		1	2	
	梅 毒	2		2	21	早期顕症 1 件 無症候 1 件
	破 傷 風				2	
	計	9	9	18	246 ( 23 ) [ 4 ]	

( ) 内は無症状病原体保有者 [ ] 内は疑似症者の再掲

## 五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 16 年 2 月			平成 16 年 1 月		
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	125	34	159	152	36	188
2	性器ヘルペスウイルス感染症	24	11	35	27	14	41
3	尖形コンジローマ	26	10	36	29	6	35
4	淋菌感染症	62	23	85	78	49	127
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	53	4	57	70	4	74
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3		3			0
7	薬剤耐性緑膿菌感染症			0			0

上記の報告数は感染症月報指定届出機関( 性感染症 : 51、基幹 : 13 医療機関 ) で把握したものです。

### 感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症( 人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

#### 【対象疾病】

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で定める86疾病

#### 【対象期間】

平成16年第6週から第9週まで(平成16年2月2日～16年2月29日)

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

感染性腸炎多いです。  
溶連菌感染症、ムンプス少し目立ちます。  
インフルエンザA型、B型各1名ずつありました。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

病原性大腸菌O1 14歳男、36歳女  
病原性大腸菌O6 15歳女  
病原性大腸菌O18 5歳男  
病原性大腸菌O125 6歳男  
病原性大腸菌O153 2歳男  
アデノウイルス、ロタウイルス混在しており、非常に多い印象を受けます。  
溶連菌もしばしば見かけております。

【尾西市 城後小児科】

3/3 インフルエンザB型が初めてでした(1歳男)。3/4も1名

【稲沢市 稲沢市民病院】

高熱、腹痛を主訴とする胃腸炎 流行しています。  
ロタ様の胃腸炎も見られます。

【犬山市 武内医院】

溶連菌感染症、感染性胃腸炎の流行が続いています。  
インフルエンザは2名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

年長児の急性胃腸炎が多いようです。  
インフルエンザは8例、うちB型3例。(2例は兄弟例)  
咽頭結膜熱も散発しています。  
水痘も続発中  
溶連菌感染症 目立ちます。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

12歳女、15歳女 姉妹 マイコプラズマ肺炎  
1歳1ヵ月女 ロタウイルス  
3歳10ヵ月女 病原大腸菌ETEC(O6)検出

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザはすべて同じ小学校生とその家族で、A型です。

【立田村 医療法人谷本医院】

### 尾張東部地区

ウイルス性胃腸炎が多く、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症もみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザの流行は終了したようです。  
アデノウイルス感染症はまだ多くみられます。  
マイコプラズマ感染症が再び増加しているようです。  
嘔吐、下痢の症状比較的多数。その他は目立った感染症みられませんでした。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

---

インフルエンザ少々のみ。  
ロタ胃腸炎増加  
溶連菌感染症少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

インフルエンザは減少しましたが、溶連菌感染症、ムンプスの流行がみられます。

【春日井市 かちがわ北病院】

臨床的にも、迅速テストでも、インフルエンザはありませんでした。  
水痘、ムンプスいずれも兄弟からの2次感染です。

【春日井市 竹内医院】

インフルエンザ激減  
ロタウイルス胃腸炎流行

【小牧市 小牧市民病院】

感染性胃腸炎が目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

溶連菌の患者が増えてきました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

5歳女2名、5歳男2名、6歳男、2歳女 アデノウイルスによる扁桃炎

【美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院】

感染性胃腸炎(ロタ陽性)流行中

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

4歳女、迅速テストにてインフルエンザB型(+)  
胃腸炎流行中

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

Strep A(溶連菌検査)(+) 5歳女、4歳女 2名

ラピッドテストロターアデノ(ロタ+) 1歳男 3名、2歳男、2歳女、3歳女、6歳女

イムノカードSTアデノ(+) 4歳男 2名、3歳男

エスプラインインフルエンザ(A+) 4歳女、2歳男、1歳女  
(B+) 2歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

病原大腸菌O111 1歳女

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

2歳女 カンピロバクター  
インフルエンザはB型散発程度  
水痘増加中

【岡崎市 花田こどもクリニック】

10歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)

1歳男 イムノカードSTアデノウイルス(+)

【岡崎市 にいのみ小児科】

36歳女 アデノウイルス滲出性扁桃炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザ A型 4名(3名 家族内発症)  
3名 クイックS-インフルAB A(+)

【岡崎市 永坂内科医院】

キャピリアFluA(+) 2名、ロタ(+) 1名

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザ散発(うち1例はB型)  
乳幼児から小学生にかけて嘔吐下痢症が目立つ。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザ1名B型、3名A型

【安城市 医療法人鳥居医院】

溶連菌感染症が増加  
インフルエンザはありません。

【西尾市 やすい小児科】

ウイルス性胃腸炎が多い。

【幸田町 とみた小児科】

アデノウイルス感染症 5歳男、6歳男、11歳男  
水痘、アデノウイルス感染症が目立ちます。

【三好町 三好町民病院】

## 東三河地区

相変わらず水痘が多く見られます。

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

## 一～三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	一宮	8	女	2/22	2/27	3/4	O26 VT1(+) VT2(-)	

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

破傷風1例(64歳:11週報告分)

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

校庭の白樺にメジロが沢山来て蜜を吸っています。メジロはH5N1に感染して媒介するのかしらとぼんやり考えていましたら、華やかな和服を着た賑やかな一団が通り過ぎていきました。卒業式の季節です。いつも貴重な情報を有難うございます。2月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザは下火になったがまだ散発中、アデノウイルスと思われる咽頭炎、扁桃炎がコンスタントに多く、ロタウイルス腸炎も非常に多い状況が続き水痘も比較的多い。これらの重症例やマイコプラズマを含む肺炎の入院目立つ、第一日赤松山先生(?差出人不明です)からはインフルエンザ47例(6例入院)、ロタを含む感染性胃腸炎の入院15例、A群溶連菌感染症2例、水痘6例、ムンプス3例あり、城北病院渡辺先生からはインフルエンザは激減、ロタウイルス性胃腸炎が少し多い傾向があるがそれほど多発はしていない、アデノ陽性者がまだたまにあり、麻疹、ムンプス、水痘は殆どなし、千種区今枝先生からは2月中旬にインフルエンザBが2名、その後インフルエンザなし、ウイルス性腸炎も減少、三菱病院入山先生からはA型インフルエンザは5名(入院2名)と減少、感染性胃腸炎5名(入院5名とやや目立つ)、マイコを含む肺炎の入院5名、RSウイルス感染症(1歳児)の入院1名、A群溶連菌感染症の入院1名、中京病院柴田先生からはあまり流行しているものはないがロタウイルス腸炎による入院目立つ、労災病院山田先生からはムンプスとロタ腸炎(大流行で入院が多い)が目立ちアデノ腸炎もちらほら、水痘とインフルエンザAは少なく溶連菌感染症が目立ち入院例もあり、RSウイルス感染症の入院目立つ、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区:犬山市武内先生からは溶連菌感染症、感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発中でインフルエンザは漸減中、江南市昭和病院小児科からはA群溶連菌感染症とロタウイルス感染症による入院が目立ち、インフルエンザは減少しB型はない、岩倉市永吉先生からはインフルエンザは減少傾向でB型が5例あり、溶連菌感染症目立ち、年長者の急性胃腸炎で点滴する子が増え、水痘散発中、常滑市民病院上田先生からはロタウイルスを含むウイルス性腸炎(要入院例目立つ)、溶連菌感染症、インフルエンザA型(少し下火になったが要入院例目立つ)、RSウイルスの細気管支炎の入院、水痘の入院が目立ちムンプスも多いとのお手紙でした。
- 3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からはロタウイルス感染症がまだ目立ち、インフルエンザはピークがすぎ、B型がたまにあり、岡崎市民病院小児科からは水痘とムンプス散発中でインフルエンザAは減少、Bは時にみられる程度、ロタウイルス感染症の入院が多くマイコプラズマ感染症の入院がちらほら、安城更生病院小川先生からはロタウイルス腸炎増加、脱水による入院目立ち、RSウイルス細気管支炎の入院が多い傾向あり、知立市近藤先生からはインフルエンザAの小流行、B1例、ムンプスと水痘がパラパラ、溶連菌感染症もパラパラ、マイコプラズマ肺炎の入院2例、刈谷市田和先生からはムンプス多発中で嘔吐下痢症がまだ続いておりロタ(+ )がたまにあり溶連菌感染症と水痘がパラパラ、豊橋市宮澤先生からはB型インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎などが目立つとのお手紙でした。  
有難うございました。



2004年1月30日(79巻7号)

高病原性鳥インフルエンザ/インフルエンザA(H5N1)。現況:03年12月中旬以来、アジアの8カ国から鶏や鳥類の感染が報告(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)。本報は人の感染発病例のまとめ。タイの5例の概略。7歳男児。発熱、咳、咽頭痛、呼吸困難、肺炎、心不全、死亡。6歳男児。発熱、鼻汁、咳、咽頭痛、呼吸困難、肺炎、肝炎、死亡。6歳男児。発熱、鼻汁、咳、咽頭痛、呼吸困難、肺炎、死亡。58歳女性。発熱、咳、咽頭痛、筋肉痛、呼吸困難、肺炎、心不全、腎不全、死亡。6歳男児。発熱、咳、咽頭痛、筋痛、呼吸困難、肺炎、心不全、死亡。ベトナムとタイの発生状況。2月9日のベトナム保健省発表:H5N1の人感染確認例は18例(死亡11例)。人から人への感染は未確認。タイ保健省発表では上記5例。WHOによる確認例の診断基準:A/H5培養陽性。A/H5のPCR陽性。対H5単クローン抗体でH5抗原が蛍光抗体法で陽性。H5特異抗体価の4倍以上の上昇。前回97年の香港のH5流行で認められたような人の伝播は未だないが要監視。

麻疹輸入監視。南アフリカ・ケ-プタウン:10月14日、ケ-プタウンでWHO関連の専門家会議。輸入例監視についての勧告。輸入例以外の麻疹確認例は年間人口百万当り1以下とすべきし。ワクチン接種率95%以上とする。国/地域で差があるが最低80%の地域で麻疹疑い例発生を年間人口10万当り1例とする。麻疹疑い例の80%以上が麻疹IgM抗体測定用採血を受ける。流行株の遺伝子検査が最低1検体採取について実施されること。麻疹ワクチン接種2回法を実施中の地域でこの勧告を勧めたい。

化学薬品・製剤の公衆衛生デ-タベ-ス作成が専門家チ-ムで開始。化学製剤の事故の原因別、地域別頻度(例:化学製剤による火災・爆発はアメリカ、次いで欧州地区に多く東南アジアでは爆発が多い)と事故の状況別、地域別頻度(例:アメリカ地区では工業製品汚染事故と輸送中の事故が目立ち、欧州地区でも同様である)の一覧表掲載。

2月6日-12日届出。コレラ:ベニン、モザンビ-ク、タンザニア。米国(輸入例)

2004年2月20日(79巻8号)

鳥型インフルエンザ/A(H5N1)。総説。概略:鳥類、稀に豚が感染するウイルス。鳥類全般に流行するが養鶏場が1878年のイタリアの発生以来流行の中心で、軽症の場合と致死率100%に及ぶ高病原性ウイルス集団発生が認められている。対策:感染発病した鶏の処分と養鶏場の隔離。A(H5N1)ウイルスは加熱(56-3時間、60-30分)、ホルマリンなどの消毒剤で死滅。低温で安定、水中では22℃で4日、0℃で30日以上生存、ウイルスの1グラムで鶏100万羽が感染。養鶏の国内・国際的輸送制限も重要な対策である。集団発生の結果:養鶏など農業に甚大な被害発生。1983年-84年の米国ペンシルバニアの発生では1,700万羽が死亡、6,500万ドルの被害があり、一度国内に広がると流行の終息に時間がかかる(92年に発生したメキシコの流行が終わったのは95年であった)。国内の伝播:鳥の排泄物などによる鳥から鳥の感染と靴や車両、籠などの器材が考えられる。国際的な伝播:養鶏関連の器材の輸出入と水鳥などの渡り鳥。現状:ベトナムやタイで発生したような人の感染例の増加を危惧。動物の種類を乗り越えて人に入りこんだ状況の調査と、今回の発生を

発端にして人の世界的流行が発生しないか監視網がひかれている。現在の所、人のH5N1感染は頻発していないし、地域差があると思われるので鶏のH5N1発生地区は全て危険とは言えないが、台湾や中国のようにH5N2の流行、パキスタンではH7やH9の流行の報告もあり要監視である。ワクチンについては開発中で、現行ワクチンではH5N1感染阻止は出来ない。有効な薬剤:現在入手可能な抗インフルエンザウイルス剤は3種類。予防にも治療にも有効と考えられるがベトナムでは無効との報告もあり、現在検討中。

インフルエンザ:日本、ベトナム、中国、香港、マレーシア、シンガポール、タイではA(H3N2)型、A(H1N1)型、B型が散発中。韓国ではB型流行中、オーストラリアではA(H3N2)、カナダではA(H3N2)流行、米合衆国では散発、欧州全域ではA(H3N2)が流行ないし散発中。

2月13日 - 19日届出。コレラ:カメルーン、リベリア、モザンビーク、タンザニア





愛知県感染症情報

2004年第1週～第10週(平成15年12月29日～平成16年3月7日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザを 除く。(高病原性鳥 インフルエンザ)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ (成人麻しんを除く。)	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	143	35,703	421	2,205	13,463	3,696	61	599	1,030	12	26	21	12	1,385	7	386	3	3	54	0	0
愛知県 総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	120	27,705	351	1,644	9,020	3,036	52	448	803	10	11	17	12	1,183	4	330	3	3	52	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	23	7,998	70	561	4,443	660	9	151	227	2	15	4		202	3	56			2		
尾張東部	9	9	2	3	1	19	1,729	33	189	453	128	1	28	54	3		1	38	1	3			1			
海部津島	7	7	2	2	1		2,007	5	54	1,030	209	2	7	28		2		27		7			19			
尾張中部	4	4	1	1			961		22	413	35	1	8	17				15		2						
尾張西部	16	12	3	4	1	1	2,059	31	152	882	314	16	6	78				58		6	1		1			
尾張北部	9	9	2	3	1	11	2,719	109	183	588	233	5	75	84		3		203		11		2				
	6	6	1	2			1,079	25	213	662	194	3	33	46				32		13						
知多半島	6	6	1	2	1	4	1,008	5	112	367	51	4	20	54				48		1			4			
	7	7	2	2		24	1,645	14	67	917	254	2	70	59		1		115	2	7						
西三河南部	11	7	2	2	1	4	1,827	12	169	251	321	1	38	82	2	2	1	118	1	23						
	11	11	2	4	1		3,060	25	148	638	299	5	19	81	1			326		11			2			
	5	5	1	2	1	1	814	5	52	380	106		14	34				83		14						
西三河北部	8	8	2	3	1	37	2,691	47	92	904	297	6	49	67	4	8	1	2	97		204		1	3		
	3	3		1		1	399	3	20	176	33	2	8	11				5								
東三河南部	12	8	2	4	1	1	3,728	16	109	922	253	3	12	67		5	9	8		22	2		13			
	9	8	1	2	1	17	1,845	21	62	433	294	1	60	34		1	4	8		6			9			
東三河北部	2	2			1		134			4	15		1	7				2								

\* 衣浦東部保健所から2週分(1件)の追加報告あり

愛知県感染症情報

2004年第1週～第10週(平成15年12月29日～平成16年3月7日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く。)	成人麻しん
計	120	27,705	351	1,644	9,020	3,036	52	448	803	10	11	17	12	1,183	4	330	3	3	52	0	0
～6ヶ月	51	264	2	5	100	82	3	3	53	5						8					
～12ヶ月	36	573	12	8	535	193	2	13	472	3	1		1	6		2					
0歳																	3				
1歳	23	1,967	53	34	1,401	587	9	19	254		3	7	1	52		16			2		
2歳	5	1,802	60	65	955	513	12	29	23			2		87		15			3		
3歳	3	1,971	52	151	868	504	7	46	1	1		1		155		17			4		
4歳		2,341	58	333	831	529	5	78				2	3	223		25			5		
5歳	2	1,544	42	340	686	296	4	97					1	252		18					
6歳		1,199	11	260	465	161	5	68		1		1	2	137		6					
7歳		1,018	19	161	403	68	2	28				1	1	80		5					
8歳		899	13	86	302	40	2	25				1	1	67		2					
9歳		1,012	10	51	262	13		16			1	1		46		3					
5歳～9歳																			20		
10歳～14歳		4,185	7	87	620	28	1	18				1	1	43		4		1	9		
15歳～19歳		1,939		8	185	3		1					1	6		3			1		
20歳～			12	55	1,407	19		7			6			29							
20歳～29歳		2,326													1	35		2	1		
30歳～39歳		2,245													1	90			2		
40歳～49歳		1,002														17			1		
50歳～59歳		582													1	22					
60歳～69歳		421														25			3		
70歳～															1	17					
70歳～79歳		250																	1		
80歳以上		165																			

\* 衣浦東部保健所から2週分(1件)の追加報告あり